

講義名	経営情報システム論		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	赤川 元昭		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース/2018年度 人間社会学部 人間健康学科/2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2018年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>コロナウイルスのため、従来の講義形式ではなく、課題学修型の授業（RYUKA Portal の「講義連絡」機能を通じ、教員から提示された小テストやレポート課題の答案を提出する授業）となります。</p> <p>私の担当講義で従来と特に異なっているのは、教科書を使うこと、授業計画、そして評価の部分です。</p> <p>シラバスを熟読の上で、履修するかどうかを決めてください。</p> <p>コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報システム論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。また、講義内容を具体的に理解しやすいものにするため、ビデオなどの視聴覚教材をできる限り利用する予定である。</p> <p>なお、後期開講の「経営情報論」を受講しようと考えている学生は、できる限り、この「経営情報システム論」を先に受講することが望ましい。</p>

到達目標
<p>・情報化時代を生きる社会人として、最低限必要な情報技術に関する知識を身につける（たとえば、ごく基礎的な情報技術用語を説明することができる）。</p>

提出課題
<p>小テストやアンケート等を複数回実施する。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>小テストについては、講義期間中にその解答の解説を行う。アンケートについては、特にフィードバックは行わない。</p>

評価の基準
<p>・小テスト、アンケート、期末試験などをもとに総合的に評価する。 （期末試験がない場合に十分に想定できます。この場合には、小テスト、アンケートをもとに評価する）</p> <p>・評価の配分は、期末試験が約90%、小テストおよびアンケート等が約10%である。 （期末試験がない場合には、小テスト、アンケートをもとに評価する）</p> <p>・ここ数年では、合格者の割合は70%程度、平均点は約70点である。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>ごく当たり前のことだが、他の受講生に迷惑をかけるような行為（私語など）は慎むこと。</p>

教科書
<p>・栢木先生のITパスポート教室 令和02年。 栢木厚 技術評論社 1580 ISBN978-4-297-11013-0</p>

プリント資料及び参考文献
<p>参考文献 「経営情報システム(第4版)」 宮川公男著 中央経済社</p>

授業計画
<p>1～2 ハードウェア 3～4 ソフトウェアとマルチメディア 5 システム構成 6～7 ネットワーク 8～9 セキュリティ 10～11 データベース 12 アルゴリズムとプログラミング 13～15 マネジメント</p> <p>参考：従来の授業計画</p> <p>1 はじめに：この講義の概要 2 情報化時代、情報化社会 3～5 ハードウェア 6 ソフトウェア 7 情報処理方式 8 ビットとバイト 情報処理の単位 9 日本語処理 10～13 マルチメディア 14 ネットワーク 15 情報技術とその社会的インパクト</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>予習は特に必要ではないが、復習については、分からなかった課題を理解するために、もう一度テキストを読み返す程度でも、ぐっと理解度が深まるはずである。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考